北日本新聞
讀賣報知 中部日本新聞 毎日新聞 朝日新聞
所在地 富山市住吉町三丁目
社長 高木友三郎
編輯兼印刷人 高木友三郎
富山市住吉町三丁目一番地 電話 富山一四〇番 振替口座 富山一四〇番
昭和二十年八月四日 第一千八百七十二号

戰時住宅・急速に建設

戰災あと地は直ちに菜園化

あさ・うかつへ列戰興復

具きべるせかつに列戰を者災戰ずれ入を髮間はで局當市縣にですにちろぬらやめさだま蟲餘
局當市にびらな、縣を楽腹のそへ備に戰決土本るくに後災戰がるあ、つし行實と々着を楽體
く汎に

戰災罹災本都では三日午後一時から臨時第一回戰災復興協議會を開催、縣市、警察署、陸軍隊、住宅營團の各當局部員同じ燃焼の舞臺、恒久復興に邁進、戰時住宅建設計（一戸建）敷地選定に決し、戰後、これに要する林材十二石と釘その他の建築材を準、百、公の協力に頼り緊速、他は自分達とすることに決定、まだ資場と旅館、国道所、公共施設のこの盛況に鑑みくることのできないものは検討のうへ新次建設計画の樹立をする。戰災者地に即刻常盤園をつくらせ、ソバ、菜種の種子を商保して戰時増産に備布するが、この種子商保樹としてソバ種子供出者に優先配給する。一方戰災戰けあとの取片づけは第一に義勇隊及び婦人にうて動員する。二方戰災戰けあとの取片づけは第一に義勇隊及び婦人にうて動員する。

取片づけは八日までに

戰災罹災者の到來を待つ臨時第四市會は三日午後三時から臨時に市議室に頭かれた左記案件を可決し、これに要する費用は無條件で市負担に一任し、かつ市當局は戰時市内を防衛、市の復興計画復興計画を早急に行つたなら、今回の興業を中心に、一日も早く復興復興に邁進することを申合せて閉會した

一、傷の戰傷者に慰問し市議會に大政翼賛會百七十名のなかに

一、住宅營團の手で緊急戰災者の入る緊急住宅一千戸を功急構築をも新設し、戰時に分散的に建築する

一、市營の食糧配給所を市内六ケ所に開設する

一、市營の大衆食堂新設場を数ケ所に設置する

一、戰災者に慰藉とに平人の遺族、家族、傷病者、人員数等に対する調査の手続きは國に対する

其他災害雜からの緊急修理注の隠蔽によって復興作業は無期延期に陥ること三日早期、り上、下旅客列車はすでに運行を開始し、高山線は尚日午後三時五十分後より始運轉、行つた

非常給食を中止

戰災者の給食はそれぞれ自分達とすることに決定、まだ給場と旅館、国道所、公共施設もすでに戰災者に開放、これに要する費用は無條件で市負担に一任する。

取片づけは八日までに

戰災罹災地の動産所有權については戰災者はそれぞれ自分の地上に八日までに至急取かたづけねば國後の廃棄物については戰災者に分配する。もしや動産の紛失のため取かたづけできないものは必ず八日までに所有者は警察署へ申出ること

要員住宅を一千戸

市營食糧配給所も開設

戰災罹災者の到來を待つ臨時第四市會は三日午後三時から臨時に市議室に頭かれた左記案件を可決し、これに要する費用は無條件で市負担に一任し、かつ市當局は戰時市内を防衛、市の復興計画復興計画を早急に行つたなら、今回の興業を中心に、一日も早く復興復興に邁進することを申合せて閉會した

一、傷の戰傷者に慰問し市議會に大政翼賛會百七十名のなかに

一、住宅營團の手で緊急戰災者の入る緊急住宅一千戸を功急構築をも新設し、戰時に分散的に建築する

一、市營の食糧配給所を市内六ケ所に開設する

一、市營の大衆食堂新設場を数ケ所に設置する

一、戰災者に慰藉とに平人の遺族、家族、傷病者、人員数等に対する調査の手続きは國に対する

其他災害雜からの緊急修理注の隠蔽によって復興作業は無期延期に陥ること三日早期、り上、下旅客列車はすでに運行を開始し、高山線は尚日午後三時五十分後より始運轉、行つた

快速復舊 鐵道戰鬪隊に凱歌

戰災罹災者の到來を待つ臨時第四市會は三日午後三時から臨時に市議室に頭かれた左記案件を可決し、これに要する費用は無條件で市負担に一任し、かつ市當局は戰時市内を防衛、市の復興計画復興計画を早急に行つたなら、今回の興業を中心に、一日も早く復興復興に邁進することを申合せて閉會した

一、傷の戰傷者に慰問し市議會に大政翼賛會百七十名のなかに

一、住宅營團の手で緊急戰災者の入る緊急住宅一千戸を功急構築をも新設し、戰時に分散的に建築する

一、市營の食糧配給所を市内六ケ所に開設する

一、市營の大衆食堂新設場を数ケ所に設置する

一、戰災者に慰藉とに平人の遺族、家族、傷病者、人員数等に対する調査の手続きは國に対する

其他災害雜からの緊急修理注の隠蔽によって復興作業は無期延期に陥ること三日早期、り上、下旅客列車はすでに運行を開始し、高山線は尚日午後三時五十分後より始運轉、行つた

起て縣民、先づ災話を打切れ

罹災の話はいくら繰りかへしても飽きることがない。個人的には生死間一髪のきわどい經験で、恐ひ出す毎に背筋のゾクゾクする情景だ。生殘つた感激深く、語れば語るだけ生々とまぶたの裏に蘇る。その上他人が聞き惚れるので話題は雪達摩の如くふくれあがり、更に他人の話題も加へて話柄はいよいよ上達する。かくて罹災話はアッチでもコッチでも夢中に繰りかへされる。然り、目下全縣百萬の縣民が罹災話に夢中である。その當座は之もひとつの愛嬌であつた、勇士の手柄話にもさも似て戰訓交換の一機會とも云へたであらう。但し戰災後三日間も經過するいま未だこの悲たらくとはあきれて言葉も出ない。戰災はもとより覺悟の前ではないか。問題は戰後第一に何を爲したるかに在る。しかも今さらわれらに何を爲すべきの疑問なぞ無い。キリキリ必死の一本道があるだけだ。即ち復仇の大決意と戰列復歸によるその實踐の仕事も始めてゐる、なに君、戰爭だもの、勝つまでには いろいろの事があらうさ』

みーもうあれから三日目だ、いい可減に愚にもつかぬ無駄話は打切らう。他人が訊いたら、ただこれだけを輕く笑つて答へやう。曰く『ああ一寸やられたよ、然しもう仕事も始めてゐる、なに君、戰爭だもの、勝つまでには いろいろの事があらうさ』

論說 戰列整備への要諦

第四インフレ影響

（一）戰爭間のインフレ 敗戰インフレに限らず、何れにも負けずりや劣る。給料、時の年和の時は一とかど興味は後、後をこに見えた人が一轉落ちられたり戰亂ともなると損失を知らず、その結果は高騰加速し、それ故に戰爭に高騰されて、ものに外ならぬ。

（二）戰大戰後のドイツ、第大戰後のドイツ、第大戰後のドイツ、第